

〈特別寄稿〉

「コロナ禍が炙り出す食の脆弱性と処方箋

東京大学教授 鈴木宣弘氏

頻発する輸出規制に耐えられる食料自給率を

新型コロナウイルスの世界的蔓延(コロナ・ショック)への対処策で、物流(サプライ・チェーン)の寸断や人の移動の停止が行われ、それが食料生産・供給を減少させ、買い急ぎや輸出規制につながる。それらによる一層の価格高騰が起きて食料危機になることが懸念されている。日本の食料自給率は37%、我々の体を動かすエネルギーの63%を海外に依存している。輸入がストップしたら、命の危険にさらされかねない。

輸出規制は簡単に起こりうるということが、今回も明白になった。FAO(国連食糧農業機関)・WHO(世界保健機関)・WTO(世界貿易機関)は共同で、輸出規制の抑制を要請した。しかし、輸出規制は国民の命を守る正当な権利であり、抑制は困難である。過度の



貿易自由化が多数の輸入依存国と少数の生産国という構造を生み、それがショックに対して価格が上昇しやすい構造を生み、不安心理から輸出規制も起こりやすくなり、自給率が下がってしまった輸入国は輸出規制に耐えられなくなっている。

だから、今行うべきは過度の貿易自由化に歯止めをかけ、各国が自給率向上政策を強化することである。自給率向上策は輸入国が自国民を守る正当な権利である。

ところが、FAO・WHO・WTOの共同声明は、輸出規制の抑制と同時に、一層の食料貿易自由化も求めている。輸出規制の原因は貿易自由化だ、とは論理破綻も甚だしい。コロナ・ショックに乗じた「火事場泥棒」的ショック・ドクトリン(災禍に便乗した規制緩和の加速)であり、看過できない。

TPP11、日EU-EPA、日米貿易協定と積み重ねる貿易自由化が、危機に弱い社会経済構造

を作り出した元凶である。これを機に貿易自由化が加速するようないはあつてはならない。量だけでない、

質の安全保障も日本は危険な食品の標的

食の安全保障には量と質がある。成長ホルモン、除草剤、防カビ剤残留でリスクのある食料が輸入基準の緩い日本を標的に

自分たちの命と食を守るという機運

ネットなどのコメントでも、これを機に生産者とともに自分たちの食と暮らしを守っていくという機運が高まってきていることがうかがえる。

「国内の農家を守ってこそ、日本の家庭は守られます。農民の作った食糧を食べて人間は生きていく。農民が人間を生かしている。農民の生活を保障する。人間の命も保証できる。今は農民の生活が保障されていない」

食の安全保障には量と質がある。成長ホルモン、除草剤、防カビ剤残留でリスクのある食料が輸入基準の緩い日本を標的に

入牛肉が売れ残り、国産が売れているとの情報もある。国産志向が購買行動にも表れてきていると

「生産者と消費者はCSA(産消提携)では同じ国民の命を守る生産から消費までの強固なネットワークを確立する機会に

農家は、自分たちこそが国民の命を守ってきたし、これからも守るとの自覚と誇りと覚悟を持ち、そのことをもっと明確に伝え、消費者との双方向ネットワークを強化して、安くて不安な食

政策的には、慌てて緊急対策ではなく、危機で農家や中小事業者や労働者が大変になったら、最低限の収入が十分に補てんされる仕組みが機能して確実に発動されるよう、普段からシステムに

入って来る。国産にはそれを使われていない。早く国産シフトを進めないと質の安全保障も危機に瀕している。安全保障のコストを考えたら「国産こそ安い」。

国内的には、一部の企業の経営、あるいは、オトモダチ企業に農業をやってもらえばいいかのよ

うに、既存農家からビジネスを引き剥がすような法律もどんどん成立させ

てしまった。すでに、メガ・ギガファームが生産拡大しても、廃業する農家の生産をカバーしきれず、総生産が減少する局面に突入している。今後、

「今だけ、金だけ、自分だけ」のオトモダチ企業が儲かっても、多くの家族農業経営がこれ以上潰れたら、国民に安全・安心な食料を、量的にも質的にも安定的に確保することは到底できない。

組み込んでおく。国民の命と暮らしを守る安全なネットワークの強化がある、危機に強い社会システムの構築が急がれる。危機に陥って慌てても危機は乗り切れない。

法人割合が36・8%に拡大

農水省の20年集落営農実態調査

農水省がこのほど公表した「集落営農実態調査(20年2月1日現在)」によると、全国の集落営農に占める法人の割合は前年に比べ1・3%上昇し、36・8%となった。地域別にみると、東北が23・4%と最も多い。法人の割合は、北陸53・2%、中国43・7%、東海37・7%の順となっている。集落営農を構成する農人が5458で157業集落数は596減の2(3・0%)増え、非法人は9374で274(2・8%)減った。安定的な経営体とするため、法人化が年々進んでいる。

集落営農を構成する農人が5458で157業集落数は596減の2(3・0%)増え、非法人は9374で274(2・8%)減った。安定的な経営体とするため、法人化が年々進んでいる。集落営農を構成する農人が5458で157業集落数は596減の2(3・0%)増え、非法人は9374で274(2・8%)減った。安定的な経営体とするため、法人化が年々進んでいる。

集落営農を構成する農人が5458で157業集落数は596減の2(3・0%)増え、非法人は9374で274(2・8%)減った。安定的な経営体とするため、法人化が年々進んでいる。集落営農を構成する農人が5458で157業集落数は596減の2(3・0%)増え、非法人は9374で274(2・8%)減った。安定的な経営体とするため、法人化が年々進んでいる。

「開拓碑」

兵庫県小野市・草加野開拓地

兵庫県の中部に位置する小野市は、北播磨の中心都市で人口約5万人。多くの企業が本社・事務所を置いている。農業は水稲を中心とする耕種と酪農や養鶏などの畜産がバランスよく営まれている。戦後、県内でも開拓地が集中した地域であり、開拓農協が6組合設置された。

兵庫県の中部に位置する小野市は、北播磨の中心都市で人口約5万人。多くの企業が本社・事務所を置いている。農業は水稲を中心とする耕種と酪農や養鶏などの畜産がバランスよく営まれている。戦後、県内でも開拓地が集中した地域であり、開拓農協が6組合設置された。



開拓神社(記念碑の上部)

地は水田化さ(写真兵庫開拓連

供)

良畜改良 家畜増殖

牛肉の食味向上へ改良

乳用牛は供用期間延長

農水省は3月31日、家畜改良の要点は次のとおり。【乳用牛】

遺伝的能力評価(ゲノミック評価)も活用し、繁殖性や強健性の改良により長命産性を高め、供用期間の延長を図り、生涯生産性を向上させる。また、導入が進んでいない搾乳ロボットへの適合性の高い体型等の分析を推進する。

泌乳期間中の乳量の変化する小さい牛は、飼養管理が比較的容易となり、併せて生涯生産性の向上も期待されることから、増殖目標・総頭数13

2万頭(現在133万頭)。うち、2歳以上の雌牛91万頭(同92万頭)【肉用牛】

牛肉に対する消費者の多様なニーズの高まりに対応する。脂肪交雑は現在の改良量を維持した上で、日齢枝肉重量や歩留基準値など肉量に関する形質や、食味に関連する不飽和脂肪酸(オレイン酸など)等の向上へ種畜の選抜・利用を推進する。また、不飽和脂肪酸のみならず、牛肉のアミノ酸量など、食味に関する科学的知見の蓄積を進め、改良形質の検討を推進する。

肥育牛の肥育期間は、一律に短縮を図ることは困難な面が多い。改良面

びは純化しつつも、総人口の継続的な増加、所得向上に伴う新興国及び途上国を中心とした食料・飼料需要の漸進的な増加が今後も見込まれる。17年(16、18年の3カ年平均値)を基準年として、29年の世界の食料需給を見通した。その結果、中期的に世界経済はより穏やかな成長となり、穀物・大豆等の食料及び飼料用需要は、これまでの伸びに比べて緩やかで継続して増加する見込み。穀物・大豆、肉類及び乳製品の国際価格の予測は次のとおり(概要)。

穀物・大豆：人口の伸びは、鶏肉の伸びが最も増加で3・3%上昇の

豚の出荷日齢は180日(同188日)、出荷時体重は120kg(同115kg)を目標とする。増殖目標・総頭数853万頭(同916万頭)そのほか、各畜種で、「能力向上に資する取り組み」として、次の2点を挙げている。

①疾病の発生予防及びまん延防止のため、防疫上必要な作業内容を標準化し、記録、点検、見直しが可能でマニュアルを作成する農場HACCP(危害要因分析・必須管理点)や畜産JGAP(日本版農業生産工程管理)手法の普及を推進する。

②遺伝的能力を十分に発揮させ、生産性向上を図るためには、家畜を快適な環境で飼養することが重要であり、アニマルウェルフェアの周知及び普及を推進する。

農水省はこのほど、20年度の「麦の需給に関する見直し」を策定した。食糧用麦の自給率は低く、小麦では12%(18年等から91万トと見通した。大麦は、ただか麦の1人当たり年間消費量は、0度・重量ベース)にとどまっている。国内産だけで満たせない需要分は、国家貿易で計画的に輸入している。

近年、小麦の1人当たり年間消費量は31、33ト増加。20年度の流通量は3万9千トと見込んだ。

農水省は4月14日、17年度の「食品ロス」(本来食べられるのに捨てられる食品)の推計値を公表した。食品ロス量は前年度比31万ト(5%)減の約612万トと、推計を始めた12年度(約642万ト)以降で最少となった。

食品関連事業者から発生する事業系食品ロス(規格外品、返品、売れ残り、食べ残し)は24万ト(7%)減の328万ト、一般家庭から発生する家庭系食品ロス(食べ残し、野菜や果物の皮などの過剰除去、直接廃棄)は7万ト(2%)減の284万トと推計した。事業系食品ロスが食品製造業や外食産業で減少し、全体を押し下

外国産小麦の需要量は、総需要量から国内産小麦及び米粉用米の流通量を差し引き、486万トとした。輸入量(政府からの販売数量)は、備蓄数量の増減分を加えた483万トと見通した。大麦は、ただか麦の1人当たり年間消費量も、0度・重量ベース)にとどまっている。国内産だけで満たせない需要分は、国家貿易で計画的に輸入している。

近年、小麦の1人当たり年間消費量は31、33ト増加。20年度の流通量は3万9千トと見込んだ。

農水省はこのほど、20年度の「麦の需給に関する見直し」を策定した。食糧用麦の自給率は低く、小麦では12%(18年等から91万トと見通した。大麦は、ただか麦の1人当たり年間消費量は、0度・重量ベース)にとどまっている。国内産だけで満たせない需要分は、国家貿易で計画的に輸入している。

穀物の国際価格ほぼ横ばい

農林水産政策研究所 29年までの世界食料需給を予測

農林水産政策研究所は、4月3日、「2029年における世界の食料需給(実質価格)は、ほぼ横ばいで推移すると予測している。同研究所は毎年、10年

後の世界の食料需給見通しを策定している。今回、17年(16、18年の3カ年平均値)を基準年として、29年の世界の食料需給を見通した。その結果、中期的に世界経済はより穏やかな成長となり、穀物・大豆等の食料及び飼料用需要は、これまでの伸びに比べて緩やかで継続して増加する見込み。穀物・大豆、肉類及び乳製品の国際価格の予測は次のとおり(概要)。

穀物・大豆：人口の伸びは、鶏肉の伸びが最も増加で3・3%上昇の

豚の出荷日齢は180日(同188日)、出荷時体重は120kg(同115kg)を目標とする。増殖目標・総頭数853万頭(同916万頭)そのほか、各畜種で、「能力向上に資する取り組み」として、次の2点を挙げている。

①疾病の発生予防及びまん延防止のため、防疫上必要な作業内容を標準化し、記録、点検、見直しが可能でマニュアルを作成する農場HACCP(危害要因分析・必須管理点)や畜産JGAP(日本版農業生産工程管理)手法の普及を推進する。

②遺伝的能力を十分に発揮させ、生産性向上を図るためには、家畜を快適な環境で飼養することが重要であり、アニマルウェルフェアの周知及び普及を推進する。

農水省はこのほど、20年度の「麦の需給に関する見直し」を策定した。食糧用麦の自給率は低く、小麦では12%(18年等から91万トと見通した。大麦は、ただか麦の1人当たり年間消費量は、0度・重量ベース)にとどまっている。国内産だけで満たせない需要分は、国家貿易で計画的に輸入している。

近年、小麦の1人当たり年間消費量は31、33ト増加。20年度の流通量は3万9千トと見込んだ。

農水省はこのほど、20年度の「麦の需給に関する見直し」を策定した。食糧用麦の自給率は低く、小麦では12%(18年等から91万トと見通した。大麦は、ただか麦の1人当たり年間消費量は、0度・重量ベース)にとどまっている。国内産だけで満たせない需要分は、国家貿易で計画的に輸入している。

近年、小麦の1人当たり年間消費量は31、33ト増加。20年度の流通量は3万9千トと見込んだ。

農水省はこのほど、20年度の「麦の需給に関する見直し」を策定した。食糧用麦の自給率は低く、小麦では12%(18年等から91万トと見通した。大麦は、ただか麦の1人当たり年間消費量は、0度・重量ベース)にとどまっている。国内産だけで満たせない需要分は、国家貿易で計画的に輸入している。

近年、小麦の1人当たり年間消費量は31、33ト増加。20年度の流通量は3万9千トと見込んだ。

農水省はこのほど、20年度の「麦の需給に関する見直し」を策定した。食糧用麦の自給率は低く、小麦では12%(18年等から91万トと見通した。大麦は、ただか麦の1人当たり年間消費量は、0度・重量ベース)にとどまっている。国内産だけで満たせない需要分は、国家貿易で計画的に輸入している。

近年、小麦の1人当たり年間消費量は31、33ト増加。20年度の流通量は3万9千トと見込んだ。

去勢肥育牛の目標数値(全国平均)

| 品種 | 項目 | 現在 | 2030年度 |
|------|-------------|------|-----------|
| 黒毛和種 | 肥育開始月齢 | 9.2 | 8.0 |
| | 肥育開始体重(kg) | 296 | 280 |
| | 肥育終了月齢 | 29.5 | 26.0~28.0 |
| | 肥育終了体重(kg) | 782 | 790 |
| | 1日平均増体量(kg) | 0.79 | 0.88 |
| | 枝肉重量(kg) | 502 | 530 |
| 交雑種 | 肉質等級 | 4.2 | 4.0 |
| | 肥育開始月齢 | 7.8 | 7.0 |
| | 肥育開始体重(kg) | 293 | 290 |
| | 肥育終了月齢 | 26.4 | 25.0 |
| 乳用種 | 肥育終了体重(kg) | 827 | 830 |
| | 1日平均増体量(kg) | 0.94 | 0.99 |
| | 枝肉重量(kg) | 528 | 540 |
| | 肉質等級 | 2.8 | 3.0 |
| | 肥育開始月齢 | 7.1 | 7.0 |
| | 肥育開始体重(kg) | 293 | 290 |
| 乳用種 | 肥育終了月齢 | 20.4 | 19.0 |
| | 肥育終了体重(kg) | 776 | 780 |
| | 1日平均増体量(kg) | 1.19 | 1.34 |
| | 枝肉重量(kg) | 440 | 450 |
| 乳用種 | 肉質等級 | 2.0 | 2.0 |

(農水省の資料を基に作成)

と飼養管理面から増体性や肉質などの向上を図りつつ、流通及び消費サイドの理解も得ながら取り組む(表参照)。繁殖雌牛は適正な栄養管理やICTの活用などにより、1年1産に近づける。分娩間隔は12・5カ月(現在13・2カ月)を目指す。

【豚】 遺伝的能力評価に基づく優良な繁殖雌牛の増殖を推進する。

【鶏】 高くて需給が拡大。豚肉もアジアを中心に消費の伸びが上昇するが、牛肉の伸びはこれらに比べて低い。国際市場は、アジアなどの純輸入量の増加を、ブラジル等の中南米及び米国等の北米を中心とする純輸出量の増加でまかなう見通し。

世界経済の減速感から、鶏肉の国際価格の上昇率は、29年に実質ベースで4・4%と畜産物の中では高くなるもの、伸びはやや抑えられる見通し。豚肉は疾病による供給への影響もあり、アジアを中心とした消費量の増加で3・3%上昇の

豚の出荷日齢は180日(同188日)、出荷時体重は120kg(同115kg)を目標とする。増殖目標・総頭数853万頭(同916万頭)そのほか、各畜種で、「能力向上に資する取り組み」として、次の2点を挙げている。

①疾病の発生予防及びまん延防止のため、防疫上必要な作業内容を標準化し、記録、点検、見直しが可能でマニュアルを作成する農場HACCP(危害要因分析・必須管理点)や畜産JGAP(日本版農業生産工程管理)手法の普及を推進する。

②遺伝的能力を十分に発揮させ、生産性向上を図るためには、家畜を快適な環境で飼養することが重要であり、アニマルウェルフェアの周知及び普及を推進する。

農水省はこのほど、20年度の「麦の需給に関する見直し」を策定した。食糧用麦の自給率は低く、小麦では12%(18年等から91万トと見通した。大麦は、ただか麦の1人当たり年間消費量は、0度・重量ベース)にとどまっている。国内産だけで満たせない需要分は、国家貿易で計画的に輸入している。

近年、小麦の1人当たり年間消費量は31、33ト増加。20年度の流通量は3万9千トと見込んだ。

小麦、大麦等の消費量安定

20年度の需給見直し

農水省はこのほど、20年度の「麦の需給に関する見直し」を策定した。食糧用麦の自給率は低く、小麦では12%(18年等から91万トと見通した。大麦は、ただか麦の1人当たり年間消費量は、0度・重量ベース)にとどまっている。国内産だけで満たせない需要分は、国家貿易で計画的に輸入している。

近年、小麦の1人当たり年間消費量は31、33ト増加。20年度の流通量は3万9千トと見込んだ。

農水省はこのほど、20年度の「麦の需給に関する見直し」を策定した。食糧用麦の自給率は低く、小麦では12%(18年等から91万トと見通した。大麦は、ただか麦の1人当たり年間消費量は、0度・重量ベース)にとどまっている。国内産だけで満たせない需要分は、国家貿易で計画的に輸入している。

近年、小麦の1人当たり年間消費量は31、33ト増加。20年度の流通量は3万9千トと見込んだ。

農水省はこのほど、20年度の「麦の需給に関する見直し」を策定した。食糧用麦の自給率は低く、小麦では12%(18年等から91万トと見通した。大麦は、ただか麦の1人当たり年間消費量は、0度・重量ベース)にとどまっている。国内産だけで満たせない需要分は、国家貿易で計画的に輸入している。

近年、小麦の1人当たり年間消費量は31、33ト増加。20年度の流通量は3万9千トと見込んだ。

農水省はこのほど、20年度の「麦の需給に関する見直し」を策定した。食糧用麦の自給率は低く、小麦では12%(18年等から91万トと見通した。大麦は、ただか麦の1人当たり年間消費量は、0度・重量ベース)にとどまっている。国内産だけで満たせない需要分は、国家貿易で計画的に輸入している。

近年、小麦の1人当たり年間消費量は31、33ト増加。20年度の流通量は3万9千トと見込んだ。

農水省はこのほど、20年度の「麦の需給に関する見直し」を策定した。食糧用麦の自給率は低く、小麦では12%(18年等から91万トと見通した。大麦は、ただか麦の1人当たり年間消費量は、0度・重量ベース)にとどまっている。国内産だけで満たせない需要分は、国家貿易で計画的に輸入している。

近年、小麦の1人当たり年間消費量は31、33ト増加。20年度の流通量は3万9千トと見込んだ。

食品ロス612万ト、過去最少

17年度 事業系が減少

農水省は4月14日、17年度の「食品ロス」(本来食べられるのに捨てられる食品)の推計値を公表した。食品ロス量は前年度比31万ト(5%)減の約612万トと、推計を始めた12年度(約642万ト)以降で最少となった。

食品関連事業者から発生する事業系食品ロス(規格外品、返品、売れ残り、食べ残し)は24万ト(7%)減の328万ト、一般家庭から発生する家庭系食品ロス(食べ残し、野菜や果物の皮などの過剰除去、直接廃棄)は7万ト(2%)減の284万トと推計した。事業系食品ロスが食品製造業や外食産業で減少し、全体を押し下

外国産小麦の需要量は、総需要量から国内産小麦及び米粉用米の流通量を差し引き、486万トとした。輸入量(政府からの販売数量)は、備蓄数量の増減分を加えた483万トと見通した。大麦は、ただか麦の1人当たり年間消費量も、0度・重量ベース)にとどまっている。国内産だけで満たせない需要分は、国家貿易で計画的に輸入している。

近年、小麦の1人当たり年間消費量は31、33ト増加。20年度の流通量は3万9千トと見込んだ。

農水省はこのほど、20年度の「麦の需給に関する見直し」を策定した。食糧用麦の自給率は低く、小麦では12%(18年等から91万トと見通した。大麦は、ただか麦の1人当たり年間消費量は、0度・重量ベース)にとどまっている。国内産だけで満たせない需要分は、国家貿易で計画的に輸入している。

近年、小麦の1人当たり年間消費量は31、33ト増加。20年度の流通量は3万9千トと見込んだ。

全開連人事

(5月1日付)

▽東日本支所東京事業所(事業推進部) 蔵田雄

農研機構野菜花き研究部門 小規模施設に低コストで簡単設置 屋根散水による施設冷却技術

近年、全国的に夏季の著しい高温が問題となっている。農作物の生育だけでなく、生産者の作業にも負担となっている。特に施設園芸では高温対策の必要性が高まっている。

農研機構野菜花き研究部門は、「屋根散水による施設内冷却技術マニュアル」をホームページで公開した。同機構が、群馬県農業技術センター、栃木県農業試験場との共同研究による成果をまとめたもの。

屋根散水とは

既存の冷却技術として、細霧冷房やパッドアンドファンなどがあるが、小規模施設では過剰投資になる場合がある。「屋根散水」は、施設屋根上に散

水し、屋根面を冷却することでハウス内部の気温を下げる方法(図)で、小規模施設向けの技術として有用。水が蒸発する際、周囲から気化熱を奪う性質を利用したもので、冷却効果の90%がこの気化熱によるもの。水温の影響は比較的小さく、屋根全面を広く濡らし気化熱をたくさん起こすことで冷却効果が高まる。

安価で設置できる点がポイントで、部材は散水チューブや支持具など広く出回っているものを組み合わせる。設置作業は2~3人で行うことができ、必要のない時は簡単に取り外せる。

ただし、水は水質の良いものを使わなければならない。汚れた水では、散

水チューブが詰まったり、フィルム面が汚れたりする。そのため、地下水が使えない場合、水道代がランニング(運用)コストとしてかかる。また、冷却効果は天候に左右され、曇雨天時は水が気化しにくく十分に効果を発揮できない。

設置効果

群馬県内のトマトのパイプハウスで実施した栽培試験では、晴天日の9~16時に10分間隔で4分散水を行う「間断散水」とした。その結果、散水しない場合に比べ裂果の発生率は低下し、上物収量が多くなった(表)。

使用した部材は、散水資材、不織布、タイマー付きバルブで、費用は10a当

図 屋根散水のイメージ

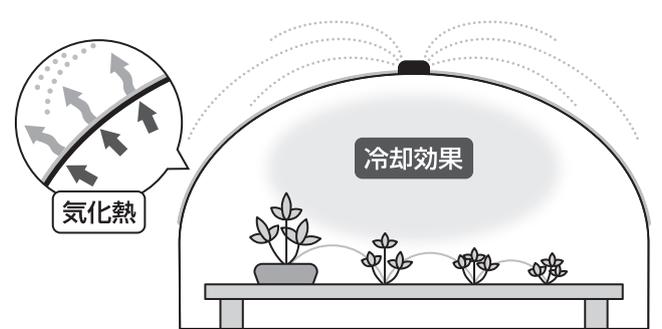


表 トマトの収量

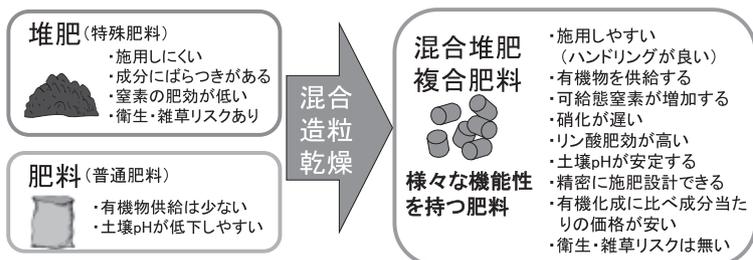
| 試験実施年 (定植日) | 処理区名 | 総収量 (g/株) | 上物収量 (g/株) | 上物率 (%) | 障害果発生率 (%) | | | |
|----------------|------|--------------|---------------|------------|------------|----|------|----|
| | | | | | 空洞 | 乱形 | チャック | 裂果 |
| 17年 (8/8) | 散水区 | 1,496 | 905 | 60.5 | 2 | 0 | 4 | 34 |
| | 対照区 | 1,424 | 782 | 54.9 | 1 | 2 | 4 | 43 |
| 18年 (8/9) | 散水区 | 1,627 | 1043 | 64.1 | 3 | 0 | 3 | 28 |
| | 対照区 | 1,612 | 956 | 59.3 | 3 | 0 | 4 | 34 |

(図は農研機構の資料より作成、表は同機構ホームページより)

たり5万7990円。一方、収益増加分が同11万9963円となり、部材費を差し引き、同6万1973円の経済効果が示された。

マニュアルは同機構ホームページでみる事ができるので、設置方法などの詳細はそちらを参照のこと。

堆肥より施用しやすく土づくり可能 混合堆肥複合肥料利用マニュアル



図は同マニュアルより引用

農研機構九州沖縄農業研究センターはこのほど、技術マニュアル「混合堆肥複合肥料の製造とその利用」を公表した。法改正により公定規格が新設された同複合肥料は、年々生産量が増えている。その特徴や利用事例などをまとめたもの。

労働力不足による堆肥施用量の減少や、化学肥料に偏った施肥による地力低下や土壌養分の不均衡は、連作障害を発生させており、近年改めて土づくりの重要性が目ざされている。

同複合肥料は、品質管理された堆肥をベースに、化学肥料などで成分バランスを整え、造粒及び加熱乾燥したものの。肥料としての利便性を保ったまま、土壌に有機物を供給する「土づくり効果」などが加えられている(図)。

堆肥と肥料を別々に施用する現行の体系では、堆肥の施用量が多くなると、堆肥由来の成分が過剰となり、土壌養分バランスの不均衡をもたらす。同肥料の場合、施用分量を正確に把握できるため、過不足ない精密な施肥設計により、土壌成分バランスを適正に保つことができる。

最大の特徴は、製造工程や形状が化成肥料と大差なく、同様に使用できる

点。形状は、粒状またはペレット状であるため、手作業で散布が可能。機械施肥にも対応しており、堆肥の場合と比べて施用にかかる労力が少なくなっている。

原料には腐熟度の高い堆肥を用い、製造時の加熱乾燥処理を行っているため、衛生リスクや雑草リスクが無く、安全に使える。肥効は、有機入り配合や有機化成と同程度。価格も、同等の肥料成分をもつ有機化成に比べて10~30%抑えられている。なお、堆肥単体で施用する場合と比べて有機物供給効果は低いため、その補助的手段として利用する。

マニュアルでは、同複合肥料に切り替えた場合の栽培事例も示されている。キャベツやレタスなどで、作物の収量や品質を低下させることなく、施肥及び土づくりに要するコストを削減できている。

現在、作物や栽培地域に応じて成分調整されたものが、各メーカーにより製造・販売されている。同センターは、「事例をもとに、自身の作物栽培の中でアレンジして取り入れてほしい」としている。マニュアルは同センターホームページからみることが出来る。

農水省、生産者向けアプリ提供 情報発信などに活用

農水省は5月1日から、生産者向けにスマートフォンアプリ「MAFFアプリ(マファアプリ)」の提供を開始している。生産者と同省をつなぐ新たなコミュニケーションツールとして、情報発信や現場の声を聞くことが狙い。

同アプリでは、最初に生産者が設定した地域、作目、関心事項などに応じて政策やイベント開催情報等を得られる。重要な情報は通知機能で知らせる。誰でも無料で利用可能だが、通信料は利用者負担。

背景には「政策情報などが届いていない、内容がわかりづらい」「現場の考えや疑問が政策に反映されていない」という生産者の声があった。

受信だけでなく、同省からのアンケートへの回答や、画像付きで現場の情報や意見を直接送付するなど、

アプリのイメージ



生産者側からも発信が可能となっている。将来的には、現在紙ベースで行われている様々な手続きや申請を、アプリから行えるようにする予定。

同省は、生産者との情報の受発信を直接行うことができる仕組みを構築する必要があるとし、今後も機能の充実を図るとしている。

「出荷記録保存」 生産者の約9割

農水省はこのほど、「生産者等の食品トレーサビリティに関する意識・意向調査」の結果を公表した。農業者1477人、流通加工業者1032人の回答をまとめたもの。

出荷・販売した農畜産物の出荷記録を保存している農業者は全体の86.7%と、約9割を占めた。その理由(複数回答)は、「税務・経理事務のため」が66.0%、「(事故などの)原因の究明や農畜産物の回収に対応するため」

が45.8%、「在庫管理のため」が14.2%の順となっている。一方、保存しない理由では、「必要性を感じないため」62.2%、「手間がかかるため」17.3%、「伝票類を保存する場所が確保できないため」5.6%となっている。

流通加工業者は、83.6%が出荷記録を保存している。加工工程の中で原料をどこに使用したかを追跡する「内部トレーサビリティ」の実施率は全体で46.4%。業種別にみると、食品製造業は64.1%、食品卸売業は63.2%とどちらも6割を超えている。一方、食品小売業は47.0%、外食産業は25.8%にとどまっている。

農研機構畜産研究部門

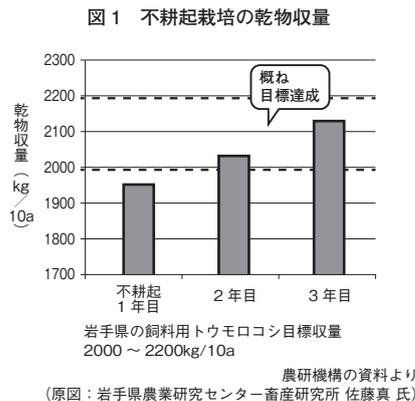
最新の不耕起・簡易耕栽培技術など紹介
トウモロコシ作付け拡大に向けて

農研機構はこのほど、「飼料用トウモロコシの作付け拡大に向けた新しい栽培技術(2019年度版)」をホームページで公開した。15~19年度にかけて、同機構及び参画道県の研究機関で得られたトウモロコシ栽培に関する知見や新技術がまとめられている。その中からポイントを紹介する。

上手な品種選び

晩生品種は収量が多い傾向があるものの、台風や冷夏の被害を受けて減収するリスクが高まる。カタログ等で示されているRM(相対熟度)は大まかな参考値のため、実際の熟期との逆転がしばしば起こることに留意する。

冷涼な地域では「すす紋病」、温暖な地域では「ごま葉枯病」が主に問題となる。これらの病害に弱い品種もあるため、各ほ場で発生しやすい病気への抵抗性品種を選ぶ。また、農業改良普及センター等でも各地域に適した優良品種を示している。現在栽培している品種で問題がなくとも、数年に一度は最新の情報を確認する。



不耕起・簡易耕栽培

省力的な栽培方法として有用だが、安定多収の達成と省資源化を両立する施肥管理技術が必要となる。不耕起栽培では寒冷地のヘアリーベッチを利用した窒素減肥法、簡易耕栽培は暖地の二毛作体系に組み込む方法などがある。

寒冷地(岩手県・滝沢市)の事例では、堆肥活用型の不耕起栽培が実証されている。これは、不耕起栽培開始前年に堆肥15t/10aを施用して耕起栽培を行い、その翌年から3年間、堆肥を施用せずに不耕起栽培を続ける方法

(化学肥料は毎春施用)。その結果、1年当たり約2t/10aの乾物収量を得ることができた(図1)。一方、窒素吸収量は3年目に低下したことから、4年目は耕起栽培に戻すことが推奨される。

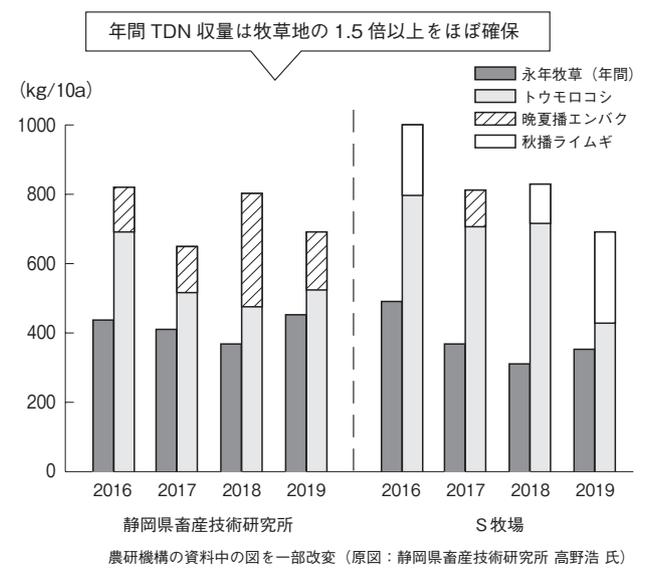
周年省力栽培

トウモロコシを軸にした牧草との二毛作体系は、播種時に不耕起または簡易耕

とすることで、慣行である耕うん体系に比べて作業時間を約5割短縮できる。

寒冷地(静岡県・富士山西麓)では、ほ場作土が浅く礫が多い、傾斜地である、トウモロコシ播種前後の作業が牧草の一番草収穫と重なるなどの理由でトウモロコシ等の栽培が限られていた。事例では、不耕起対応高速播種機の活用により、省力的な牧草収穫跡地への播種ができ、「不耕起トウモロコシ飼料ムギ」の二毛作体系が可能となった。栽培試験の結果によると、年間TDN収量は、永年牧草地の1.5倍程度を確保できている(図2)。

図2 牧草地とトウモロコシ飼料ムギ二毛作体系のTDN収量の比較



湿害対策

トウモロコシは、他の飼料作物と比べて耐湿性が低く、排水が良好なほ場が適している。排水性は、「耕うん同時畝立て播種技術」で改善を図ることができる。これは、アップカットロータリと施肥播種機を組み合わせる10cm前後の畝に播種する技術で、高い位置に種子が播かれるため湿害対策となる。

留意点として、播種機の種子の詰まりに注意しなければならない。また、畝立て播種は倒伏が起きやすいため、湿害の発生していないほ場では行わない。

梅雨時期のサイレージ給与丁寧

変敗による品質低下防ぐ

梅雨を迎えるに当たり、湿度が高くなる環境が続くことになる。サイレージの変敗やカビの発生が多くなることが心配される。飼料の品質低下や廃棄を防ぐために重要な点を改めて確認したい。

飼料の水分含量15~20%以上でカビが発生。中には、牛に有害なカビ毒を産生するものもある。牛は反すう胃の機能により、他畜種に比べてカビ毒の影響を受けにくいとされている。しかし、カビ毒を生じなくても、カビが増殖した飼料は栄養価値が低下する。牛

の嗜好性も落ち、食欲不振が原因で健康を損なう危険性もある。

飼槽周りに注意

食べ残しは腐敗しやすく、飼槽や水槽周りの清掃はこまめに行っておく。また、飼槽に凸凹があると飼料片やヨダレが残り腐敗を助長するので、コンクリート補修材で平らにし、レジンなど耐久性がある資材で補強する。TMRやサイレージは、飼槽で発熱(二次発酵)していないかもチェックしておく。

また、サイレージは気温の上昇に伴

(0.013㊦増)となった。全国通年平均を上回った地域は、北海道の3.938%のみだった。一方、最も低い地域は東海の3.833%となっている。

乳脂率3.9%以上4.0%未満の層が最も多くを占め、全体の25.9%(1.2㊦増)となっている。3.5%以上3.6%未満は1.6%(0.2㊦増)と微増、3.5%未満は1.0%(同率)だった。北海道、東北、東山、近畿で3.6%未満の割合が全国平均より高くなっている。

無脂乳固形分の全国通年平均は8.791%(0.001㊦増)となっている。

乳脂率平均3.927%に上昇
19年 集乳路線別調査

(公財)日本乳業技術協会は、19年(1~12月)の全国集乳路線別生乳成分調査の結果をまとめた。全国の乳業会社9社の協力を得て実施したもの。

工場に搬入された生乳をローリー単位で調査路線数とし、19年は7933路線(前年比57路線増)が対象となった。調査対象乳量は、全生乳生産量の41.6%を占める。

乳脂率の全国通年平均は、3.927%

って変敗しやすくなり、品質が不安定になりがちである。腐敗部位を取り除いた上で給与する。

適切な調製と貯蔵

粗飼料の変敗やカビが発生しないよう、収穫後は適切に調製・貯蔵することが重要である。

乾草調製は、3~4日間晴天が続くと予想される日に刈り取り、貯蔵時の水分含量は15%以下に抑える。刈り取り後も糖分を消費し続けるので、できるだけ速やかに乾燥させる。調製に適した日数は限られるので、適期を逃さないよう収穫計画を立てる。貯蔵場所は、風通しの良い環境とする。

バンカーサイロからサイレージを取り出す際は、できるだけ空気が入らないよう丁寧に行う。明るい時間帯に変敗状況を確認しながら取り出すことが重要。パケットで下からすくい上げると空気が流入しやすいので、上から削るように取り出すことを心がける。取り出し後は速やかにシートで覆い、シートの破損はテープなどで早急に補修する。

WCSなどロールペールで保存しているものは、材料草とラップフィルム間に空気が入ると腐敗を招く。保管中やむを得ず移動させる際は、ロールを変形させないように丁寧に扱う。

プラスワンプロジェクト

農水省、牛乳消費を促進

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学校給食向け牛乳のキャンセルや飲食店等の休業など、牛乳消費が低迷している。農水省は、生乳生産がピークとなる6月に向けて消費を促進するために、4月21日から「日本の牛乳を救う『プラスワンプロジェクト』」を緊急スタートした。

生乳生産量は増えていくが、牛乳消費が低迷し、余った分は乳製品向けとなる。しかし、乳業メーカーの乳製品の製造能力を超えた生乳は行き

場を失い廃棄せざるを得ない状況となる恐れがある。同省は、ピークを乗り切れば廃棄の危機を回避できるとしている。

プロジェクトでは、「毎日牛乳をもう(モ〜)1杯。育ち盛りは、もう(モ〜)1パック」をキャッチコピーとし、ポスターや動画を通じて、消費者に牛乳やヨーグルトを普段より1本多く購入してもらうよう協力を求めている。家庭内での消費も伸ばすために、同省ホームページでは牛乳を使った料理レシピなどを紹介している。生産量を短期的に調整するのが難しいため、少しでも多く買うことが酪農家への応援につながる事となる。

富山県農林水産総合技術センター畜産研究所

玄米と生稲わらサイレージで成績同等

黒毛和種肥育後期 飼料費約6%削減

肉用牛経営に占める飼料費の割合は高く、輸入飼料に依存している。穀物価格の国際変動に影響されやすいなどの問題点があり、天災などの緊急時にリスクが高い。

低コストで自給飼料を生産・利用するため、経営体(府県自給飼料)コンソーシアム(事務局:農研機構)は「水田飼料作を基盤とする資源循環型牛乳・牛肉生産の手引き—牛肉生産技術編—」を公表した。その中から、富山県農林水産総合技術センター畜産研究所の研究成果「玄米と生稲わらサイレージを活用した黒毛和種肥育」を紹介する。

◇試験方法

肥育後期の黒毛和種去勢牛を「試験

区」と「対照区」にそれぞれ5頭ずつ供試した(父は家畜改良事業団の種雄牛が主)。

試験区は、出荷前の6ヵ月間、市販の配合飼料の30%を破碎玄米で代替(乾物中25.7%)し、配合飼料(58.3%)、粗飼料に生稲わらサイレージ(12.5%)のほか、大豆粕(3.5%)を給与。対照区では市販配合飼料(91.0%)と稲わら(9.0%)を給与。両区とも平均約27ヵ月齢で出荷した。

◇結果

生稲わらサイレージは嗜好性がよく、粗飼料、粗飼料+濃厚飼料ともに乾物摂取量は試験区が対照区を上回った(図)。

飼料費は、飼料単価の低下等により

対照区と比べて1日当たり30円(5.8%)、1kg増体当たり13円(1.8%)低減した。1頭当たり販売価格では、対照区よりも試験区が8万7473円上回った。

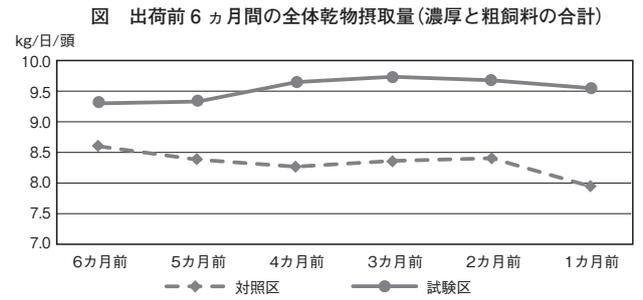


表 各区の枝肉成績

| 試験頭数 | 試験区 5 | 対照区 5 |
|--------------------------|------------|------------|
| 枝肉重量(kg) | 521.0±48.2 | 485.8±50.2 |
| ロース芯面積(cm ²) | 59.4 | 59.8 |
| ばら厚(cm) | 8.8 | 8.2 |
| 皮下脂肪厚(cm) | 2.5 | 2.7 |
| 歩留基準値 | 74.2 | 74.1 |
| 脂肪交雑(BMS No.) | 6.4 | 7.2 |
| 肉色(BCS No.) | 3.8 | 4.0 |
| 締り・きめ等級 | 4.2 | 4.0 |
| 脂肪色(BFS No.) | 3.0 | 3.2 |
| 等級(頭) | A5 | 1 |
| | A4 | 3 |
| | A3 | 1 |

図・表ともに農研機構・富山県農林水産総合技術センター畜産研究所の資料から

肥育成績のうち、出荷体重は対照区と同等の成績が得られるとともに、枝肉重量や肉質の枝肉成績も対照区と同等の成績だった(表)。一価不飽和脂肪酸の割合及びアミノ酸含有量は、対照区と同等の値を示したが、アミノ酸のうち抗酸化作用を持つ成分は試験区で多くなり、差別化できる可能性が示された。

以上のことから、肥育後期に破碎玄米と生稲わらサイレージを給与しても、従来と同等の肥育成績、枝肉成績を得ることが出来るとともに、地域で生産された飼料の利用により特色ある牛肉生産に役立つとみられた。

※「生稲わらサイレージ」は刈り取

り直後の稲わらに乳酸菌製剤を加えてサイレージ化し、長期保存を可能としたもの。

野生動物の侵入に用心

イノシシの「もぐり込み」対策を

農研機構中央農業研究センター鳥獣害グループの竹内正彦氏による、「畜舎への野生動物侵入の実態とその対策」の資料から、肉用牛の濃厚飼料の取り扱いの注意点などについて紹介する。

第一に、野生鳥獣の中でも特にイノシシに着目し、「慣れる」から「食べる」に段階が移っていくことに注意が必要であるとしている。初めはどんな対策でも有効だが、それは警戒心があるためであり、慣れてしまうと何でもなくなる。畜舎にエサがあると学習されることで被害が増える。肥育牛舎の

濃厚飼料は、タケノコやドングリでエネルギーを蓄えているイノシシにとって、食物条件の厳しい冬や夏にはとても魅力的なものとなる。

対策には、まずはイノシシの特性を知ることが重要。「飛ぶ」よりも先に「もぐりたい」生き物であることを頭に置いた対策が求められる。防護柵などを設けた場所も、最初にイノシシはもぐろうと探るため、地際にすき間などができないよう点検する。

扉を閉めていてもすき間などがあれば侵入してくる。他にも、アライグマやタヌキは登って畜舎上部のすき間や

配管からも侵入するため、小さなすき間でも極力残さず対策することが必要。

電気柵や金網柵を畜舎の周りに設置することも有効である。金網柵を突破される場合、ほとんどは設置や管理に重大なミスがある。まずは何故その場所が突破されたのか、原因を確認することが大切。新しい柵に張り替えるより、以前の柵に新しい柵を加えることで、イノシシにとって複雑でハードルの高い対策になる。

牛舎への進出ルートを遮断するため、周囲の草刈りをしておくことも重要。やぶは屋間から隠れることができ、休み場であり、すみかになる。刈り払って進出経路の環境を改変することで、警戒して侵入をためらわせる効果

イノシシのもぐり込みを防ぐ対策(プラスチックネット)の例



写真: 竹内正彦氏の資料から

が期待できる。

エサを食べさせない・住みかを作らせないことが重要となる。いきなり完璧な対策は求めず、一つずつでも対策をすれば食べられるエサは確実に減らせるという考え方で臨む。野生動物に、面倒な人間がいると学習させることが重要であるとしている。

出典: 公開セミナー「野生動物と家畜伝染病」(於: 宮崎大学、2020)

世界初、フリーズドライ精子で子牛誕生

遺伝資源保護の新たな方法に

牛の遺伝資源の確実な保護のため、新たな保存方法の開発が望まれている。

宮城県畜産試験場と高知大学は共同で、保存食品などで使われている「フリーズドライ」技術による凍結乾燥精子を用いて、世界で初めて子牛の生産に成功した。

【方法と結果】

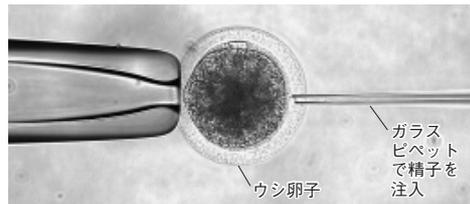
宮城県の種雄牛から精液を採精し、高知大学まで冷蔵輸送した。凍結乾燥機にて保存容器内で乾燥し、再び宮城県へ輸送した。半年間-30℃で保存し、19年7月に保存容器に水を入れ、顕微

授精(顕微鏡下で人の手と連動した装置を用いて授精を行う方法(写真))で卵子に精子1個を注入し、受精卵を作出した。8日後に同県内の酪農家のホルスタイン種雌牛に受精卵の移植を行った。20年4月に雌子牛が誕生し、今も元気に育てられている。

【期待される効果】

現在、人工授精や体外受精に用いる精子は液体窒素の中で保存されている。しかし、1ヵ月に1回程度液体窒素を補充する必要があり、液体窒素生産による環境負荷などの影響も心配さ

フリーズドライ精子の顕微授精



写真提供: 高知大学農林水産海洋学部 松川和嗣氏

れる。また、大災害があった時など、貴重な遺伝資源が失われる危険がある。フリーズドライによる精子の-30℃保存が可能になったことから、液体窒素を使わずに牛の遺伝資源を守ることができる方法として期待される。

今後の課題として、冷凍庫での長期保存が可能なもの、常温保存が可能か、コストの問題などを検討するとしている。

交雑・乳用種ともに増額 牛マルキン3月分

農畜産業振興機構はこのほど、20年3月販売分の肉用牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキン)の補てん単価(確定値)を公表した。交雑種と乳用種で補てんが行われる。新型コロナウイルス感染拡大の影響などから、交雑種は2ヵ月連続、乳用種は45ヵ月連続の発動となる。

1頭当たりの補てん単価は、交雑種が11万6715.6円、乳用種が5万4562.5円となった。前月に比べて交雑種が9万2593.8円、乳用種が1万5243.3円増額した。交雑・乳用種ともに販売価格の低下と物財費の上昇による。

畜産物需給見通し

牛枝肉

外出自粛の継続
で外食需要の回復は
厳しい状況

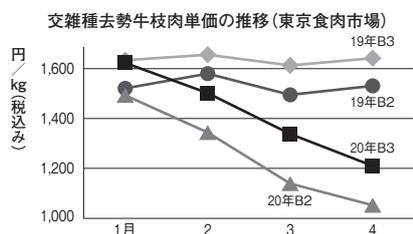
4月の枝肉相場は中旬以降、日を追うごとに下がった。16日、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言の対象地域が全国に拡大し、需要がさらに落ち込んだ。

【乳去勢】4月の東京市場乳牛去勢B2の税込み平均枝肉単価(速報値、以下同じ)は859円(前年同月比81%)となり、前月に比べ99円下げた。

農畜産業振興機構の需給予測によると、5月の乳用種の全国出荷頭数は、2万4300頭(93%)と減少を見込んでいる。

【F₁去勢】4月の東京市場の交雑種(F₁)去勢税込み平均枝肉単価は、B3が1207円(前年同月比74%)、B2は1047円(69%)となった。前月に比べそれぞれ116円、72円下げた。

同機構は5月の交雑種の全国出荷頭数を1万7900頭(95%)と、減少基調が続くと予測している。



【和去勢】4月の東京市場の和牛去勢税込み平均枝肉単価は、A4が1706円(前年同月比71%)、A3は1516円(68%)となった。前月に比べそれぞれ

れ140円、135円下げた。A5は260円安の2054円(75%)と前月に続き大きく下げた。

同機構は5月の和牛の全国出荷頭数は3万5400頭(102%)と、引き続き前年同月を上回ると予測している。全品種の出荷頭数は7万8800頭(98%)と予測している。

一方、5月の輸入量は総量で4万7400t(98%)と予測。内訳は冷蔵品が2万1800t(94%)、冷凍品が2万5600t(101%)。冷蔵品は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で需要減少が見込まれることから、前年同月を下回る予測。冷凍品は、同様に需要減少が見込まれるものの、前年同月の輸入量が少なかったことから、わずかに上回ると見込んでいる。

今後も外出自粛や在宅勤務が継続するとみられる。外食需要の回復は厳しい状況が続く。需要減退の中、内食・中食向けで牛肉の一定の引き合いに期待がかかるが、相場は総じて弱もちあいの展開が予想される。

向こう1ヵ月の東京市場の税込み平均枝肉単価は、乳牛去勢B2が850~900円、F₁去勢B3が1200~1250円、B2は1050~1100円、和牛去勢A4が1650~1750円、A3は1500~1600円での相場展開か。

4月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

| ブロック | 品種 | 頭数 | | 重量 | | 1頭当たり金額 | | 円/kg | |
|-------|------------------|--------|--------|-----|-----|---------|---------|-------|-------|
| | | 当月 | 前月 | 当月 | 前月 | 当月 | 前月 | 当月 | 前月 |
| 北海道 | 乳去 | 837 | 853 | 295 | 295 | 222,054 | 233,301 | 753 | 791 |
| | F ₁ 去 | 1,141 | 1,258 | 320 | 316 | 414,335 | 446,028 | 1,295 | 1,411 |
| | 和去 | 1,245 | 1,443 | 312 | 310 | 660,447 | 684,996 | 2,117 | 2,210 |
| 東北 | 乳去 | 2 | 2 | 148 | 187 | 67,650 | 95,150 | 457 | 510 |
| | F ₁ 去 | 7 | 8 | 314 | 271 | 308,629 | 307,175 | 982 | 1,136 |
| | 和去 | 2,026 | 2,246 | 305 | 304 | 616,424 | 651,149 | 2,021 | 2,142 |
| 関東 | 乳去 | 61 | 37 | 277 | 295 | 265,027 | 286,119 | 955 | 971 |
| | F ₁ 去 | 133 | 138 | 304 | 297 | 411,946 | 434,165 | 1,356 | 1,462 |
| | 和去 | 933 | 770 | 263 | 255 | 619,788 | 628,030 | 2,357 | 2,459 |
| 北陸 | 乳去 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | F ₁ 去 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 和去 | 58 | 43 | 273 | 290 | 648,089 | 670,053 | 2,536 | 2,311 |
| 東海 | 乳去 | 14 | 9 | 288 | 284 | 231,314 | 229,288 | 802 | 807 |
| | F ₁ 去 | 52 | 46 | 296 | 304 | 331,543 | 414,772 | 1,121 | 1,365 |
| | 和去 | 283 | 448 | 266 | 265 | 675,306 | 770,233 | 2,536 | 2,907 |
| 近畿 | 乳去 | 1 | - | 153 | - | 135,300 | - | 884 | - |
| | F ₁ 去 | 3 | - | 241 | - | 413,966 | - | 1,718 | - |
| | 和去 | 369 | 480 | 257 | 258 | 576,816 | 632,227 | 2,243 | 2,454 |
| 中四国 | 乳去 | 99 | 98 | 272 | 271 | 194,611 | 189,682 | 716 | 699 |
| | F ₁ 去 | 234 | 228 | 315 | 307 | 374,164 | 405,331 | 1,189 | 1,321 |
| | 和去 | 998 | 917 | 289 | 287 | 594,968 | 671,583 | 2,060 | 2,337 |
| 九州・沖縄 | 乳去 | 27 | 25 | 310 | 297 | 232,915 | 218,328 | 751 | 736 |
| | F ₁ 去 | 316 | 324 | 314 | 297 | 379,430 | 424,892 | 1,208 | 1,429 |
| | 和去 | 7,247 | 9,409 | 292 | 289 | 669,651 | 697,539 | 2,292 | 2,413 |
| 全国 | 乳去 | 1,041 | 1,024 | 292 | 292 | 221,988 | 230,365 | 760 | 789 |
| | F ₁ 去 | 1,886 | 2,002 | 316 | 310 | 400,658 | 435,881 | 1,268 | 1,406 |
| | 和去 | 13,159 | 15,756 | 292 | 290 | 648,809 | 684,982 | 2,222 | 2,362 |

注：(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

豚肉の家計消費割合、1割上昇し50%

18年牛肉は同率の31%

農水省は4月14日、18年次(1~12月)の食肉の消費構成割合を公表した。家計消費(内食：精肉を家で調理して消費)の割合は、前年に比べ牛肉と鶏肉は同率で、豚肉は1割上昇した。

食料需給表に基づく年次ベースでの「推定出回り量」、畜種ごとの「家計消費」「加工仕向け」「その他(外食、中食など)」の割合を、関係資料を基にそれぞれ算出した。

畜種別に消費割合の多い順をみると、牛肉は、その他が63%(前年比同)、家計消費が31%(同)、加工仕向けが6%(同)。その他が08年から増え、6割前半で推移している。一方、家計消費は豚肉、鶏肉に比べて少なく、3割前半で推移している。

豚肉は、家計消費50%(1割増)、

2018年次 食肉の消費構成割合 (%)

| | 家計消費 | 加工仕向け | その他(外食等) |
|----|------|-------|----------|
| 牛肉 | 31 | 6 | 63 |
| 豚肉 | 50 | 23 | 27 |
| 鶏肉 | 40 | 6 | 54 |

その他27%(同)、加工仕向け23%(1割減)の順。近年、家計消費が増えて5割前後となり、加工仕向け、その他は微減。牛肉、鶏肉に比べ、加工仕向けの割合が高い。

鶏肉は、その他54%(1割増)、家計消費40%(同)、加工仕向け6%(1割減)の順。それぞれの割合はほぼ横ばいで推移している。

なお、食糧自給表によると、18年度の1人・1年当たり純食料は、牛肉が6.5kg(前年度比0.2kg増)、豚肉が12.9kg(0.1kg増)、鶏肉が13.8kg(0.4kg増)となっている。

豚枝肉

出荷頭数平年比減、内食需要で堅調な展開か

4月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が611円(前年同月比114%)、中物は588円(115%)となった。前月に比べそれぞれ129円、151円上げた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で内食需要がさらに高まり、中旬以降、高値の展開となった。

農水省の肉豚生産出荷予測によると、5月は131万1千頭(前年同月比97%、過去5年同月平均比98%)、6月は125万7千頭(104%、98%)と平年を下回って推移すると見込んでいる。

農畜産業振興機構の需給予測によると、5月の輸入量は総量で7万1600t(前年同月比85%)の見込み。内訳は冷蔵品が3万2000t(92%)、冷凍品

が3万9600t(80%)。冷蔵品は、現地工場が新型コロナウイルス感染拡大防止のため閉鎖したことによる生産減少から、冷凍品は同病の影響で外食産業を中心に需要減少が見込まれることから、ともに前年同月を下回ると予測している。

また、国産品と輸入品を合わせた出回り量は前年同月比0.7%減、多かった期末在庫は同1.5%増に縮小すると見通している。

外出自粛の継続で、引き続き内食需要が見込まれる。出荷頭数が平年比で減少予測の一方、家庭消費向け需要の増加により、堅調な相場が続くことが予想される。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が620~650円、中物は570~600円での相場展開か。

素牛

スモール

枝肉相場下落で乳牛・和子牛ともに弱基調

【乳素牛】4月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格(左表、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳去勢が22万1988円(前年同月比94%)、F₁去勢が40万658円(77%)だった。前月に比べそれぞれ8377円、3万5223円下げた。F₁去勢は枝肉相場の下落により、前月に続いて大きく下げた。

枝肉相場は全体的に弱もちあいの展開が予想されており、素牛価格も弱含みの展開か。

【スモール】4月の全国24市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、暫定値)は、乳雄が11万

1347円(前年同月比77%)、F₁(雄雌含む)は20万5273円(64%)となった。前月に比べそれぞれ1万5805円、8353円下げた。

今年は取引頭数により平均価格が上下しているが、ともに下げ基調。枝肉相場の低迷から、下押しの展開か。

【和子牛】4月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格は、64万8809円(前年同月比78%)となった。新型コロナウイルスの感染拡大で、特に和牛が打撃を受けており、前月に比べ3万6173円安とさらに下げた。

和牛枝肉の需給改善の見通しが不透明な状況。例年、子牛の需要が弱まる時期に入るため、弱もちあいの展開が予想される。